

# 都市再生整備計画(第5回変更)

しおばらおんせんちく  
塩原温泉地区

とちぎ なす しおばらし きゅうしおばらまち  
栃木県 那須塩原市(旧塩原町)

平成21年3月

# 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	栃木県	市町村名	那須塩原市(旧塩原町)	地区名	塩原温泉地区	面積	120 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度				

## 目標

- 大目標：温泉街の再生と住民がいいきと暮らすまちづくり
- 目標1：“お泊りへの誘い” 仕組みづくり
- 目標2：“歩いて楽しむ” ための基盤づくり
- 目標3： 地域が一体となって取り組む“おもてなしのまち” づくり

## 目標設定の根拠

### まちづくりの経緯及び現況

バブル経済の崩壊後の景気低迷が続く中、旧塩原町では「温泉と滝と吊橋の町」をキャッチフレーズに、観光温泉地としての生き残りをかけて、遊歩百選(読売新聞大阪本社)に選定された塩原溪谷歩道などの遊歩道や、無補剛桁歩道吊橋としては日本最大級の長さを誇るもみじ谷大吊橋をはじめ、七ツ岩吊橋、紅の吊橋などの整備を進めてきた。

また、塩原もの語り館などの中心温泉街での交流、滞留の拠点を整備する一方で、地域の特色を活かしたまちづくり、地域の活性化を推進するためには、地域住民の参加と自主的な活動が必要不可欠であることから、平成10年度には、官民共同のプロジェクトチームを組織し、観光に特化した総合計画とも言える「観光プラン21しおばら」を策定し、行政と住民が一体となったまちづくりに取り組んでいる。

- ・観光プラン21では、現状の様々な問題点や課題を洗い出すとともに、地域の資源や特色を見つめ直し、観光地としての将来像とその具現化の方策を描いたもので、地域の再生・活性化の主体は、地域の住民・民間の活力にあると位置付け、プランの実現には、行政施策の充実と併せて住民の意識の高揚と改革が必要不可欠であることを広く示した。
- ・平成12年度からは、各地区に業種や年齢に拘らない、地区を単位としたまちづくり協議会を設立した。それぞれの地区の特色を活用し、住民が自らが実施する事項、行政に支援を求める事項などをまとめた計画が策定され旧塩原町にも提言書として提出されている。
- ・この提言書は、各地区がおおむね1年をかけて25回から30回の協議を重ねたうえで策定されたもので、多くの住民の意見と地域づくりへの思いが込められたものとして、旧塩原町においても振興計画等との整合性を確保しつつ、可能な限り各種計画や施策への反映を図っている。
- ・これまでに行われた地区のまちづくり活動は多彩で、主に観光客を対象にした催し(大根大鍋、灯籠流し、さくら祭り、七夕祭りなど)や、地域住民向けの郷土歴史講演会や星空映画会などが実施されている。

また、地区の魅力創出のための事業として、花いっぱい運動やモニュメントの整備、共通屋根看板の設置などが行われている。

- ・現在は、地区ごとの特色と温泉街全体としてのイメージの調和を図り、塩原の有する地域資源の活用と新たな魅力を創出するため、各地区間の連携の強化を図っている。
- ・郷土の歴史や文化、風光明媚な自然景観、豊富な温泉などの地域資源を活用した“歩いて楽しむ”温泉街づくりは、旧塩原町の振興計画や各地区のまちづくり協議会の検討結果、提言書に共通した考え方である。

### 課題

塩原温泉の宿泊者数は平成3年(146万人)以降減少傾向にあり、観光産業のみならず住民の生活に大きな影響を及ぼす宿泊者数を、減少から現状維持、さらには増加に転じることが緊急の課題である。

- ・塩原温泉郷は首都東京から約150kmと恵まれた立地条件にある反面、高速鉄道網や道路交通網の整備に伴い、日帰りや立ち寄りの観光スポット化が進み、入込客が宿泊客に結び付かない現象が顕著に表れている。
- ・観光客の入り込みを宿泊に結び付けるためには、魅力あふれる温泉街を形成し、滞留・滞在時間の延長を図るとともに、塩原温泉ファンやリピーターを増加させる必要がある。
- ・観光地の情報を情報通信網等で検索利用していることから、塩原温泉の知名度をさらに向上させる必要がある。
- ・より魅力あふれる温泉街としていくためには、郷土の歴史や文化、自然景観、豊富な温泉などの地域資源を有効的に活用し、地域住民の合意形成を図りながら、行政や観光関連事業者のみならず、地域が一体となって取り組まなければならない。

### 将来ビジョン(中長期)

“活気と賑わいのある温泉街”の創出と仕組みづくり

温泉街の環境美化や景観形成、安全で快適な歩行環境と回遊ルートの構築、交流と滞留の拠点整備などを推進すると同時に、地域ぐるみでのホスピタリティの向上を図り、活気と賑わいのあるまちづくりを実現する。

- ・第4次塩原町振興計画(後期計画)は、美しい自然、豊かな温泉、歴史と文化などの観光資源を最大限に活用し、自然景観にマッチした観光地づくり、多様な魅力を持った拠点の整備を目標に掲げたうえで、美しく“歩いて楽しい”温泉街を創造していく地区として位置付けている。
- ・観光プラン21しおばらでは、道路のプロムナード化や電線の地中化を図りながら、道路沿いや側道の歩行空間の確保、整備を推進する、温泉街の中心区域としている。

## 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
塩原温泉の知名度向上	位/年	にっぽんの温泉(知名度100選)のランクアップ	情報媒体における知名度の向上は、入込客増加への波及効果が大きく、経済の活性化を表わすバロメーターのひとつである。	85位	平成15年	70位	平成20年
温泉旅館組合ホームページアクセス件数	件/年	ホームページにアクセスした件数	アクセス件数の増加は、宿泊への興味度の向上を計る指標となり、宿泊者数の増加へつながっていき、経済の活性化を表わすものである。	26.5万件	平成15年	31.5万件	平成20年
塩原もの語り館入り込み客数	人/年	塩原もの語り館の入館者数	駐車場整備、周遊道路整備等による温泉街周遊客数を表すものである。	2.8万人	平成15年	3万人	平成20年

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1:“お泊りへの誘い”仕組みづくり            ・整備方針2:“歩いて楽しむ”ための基盤づくり</p> <p>・塩原温泉の入込者数及び宿泊者数の増加を図るためには、観光客の滞留・滞在時間の延長を図るとともに、地域の特色を活かした魅力溢れる観光地づくりを進めなければならないことから、豊かな自然や温泉、箒川と国道400号との間に隣接する温泉街と味わい深い温泉情緒などの地域資源を活かし、歩いて楽しむことができる温泉街としての基盤づくりを行う。            塩原温泉を歩いて楽しんでもらうためには、観光客の多くがマイカーを利用している現状から、駐車スペースの確保や道路や遊歩道などの整備によって、温泉街の周遊導線を構築していく。            また、求心力のある中心温泉街を形成するため、滞留と交流の拠点になる施設を整備していく。なお、この拠点施設は、塩原温泉が平成18年に開湯1200年を迎える記念事業として実施する。            ・観光客が歩いてみたくなる中心温泉街とするため、温泉街のメイン道路のプロムナード化や電線の地中化による景観整備と併せて、地域住民によるオープンカフェや街角ギャラリーで、賑わいのあるまちづくりを進める。            また、温泉街に架かる吊橋のライトアップや浴衣で楽しむ温泉街づくりを進め、夜間の時間と空間を演出していく。</p>	<p>広場整備事業（門前交流広場）            緑化施設等整備事業（周遊道路・夜間景観照明）            公園整備事業（温泉公園）            各種おもてなしイベントの開催            地域人材の育成及び活用            美化活動の充実</p>
<p>・整備方針3:地域が一体となって進める“おもてなしのまち”づくり</p> <p>・豊かな自然を活かし、自然体験と宿泊を結び付けたエコツーリズムを推進するためのパークコンダクターや、明治大正期の文人墨客たちが愛した塩原のまちを案内するための観光ボランティア活動を活性化し、地域住民と観光客との交流の場、機会を増やし、人と人とのふれあい、ぬくもりが感じられる温泉街を創生していく。            ・塩原温泉観光協会等が主催する湯けむりマラソン大会等のイベントのほか、各地区のまちづくり協議会等が行うおもてなしイベントの充実を図り、観光客との交流促進、地元住民の観光地づくり意識の高揚と、まちづくり組織の基盤強化を進める。</p>	<p>美化活動の充実            各種おもてなしイベントの開催            郷土芸能の伝承            地域人材の育成及び活用            地区まちづくり活動への支援</p>
<p>その他 栃木県 那須塩原市(旧塩原町)</p> <p>○ 継続的なまちづくり活動</p> <p>・本計画は、整備計画に基づき行政が実施する施策と、地区のまちづくり協議会が行う活動を車の両輪として構成されている。計画の策定にあたっては、地区住民の合意に基づき提出されたまちづくり協議会からの提言書の内容を踏まえ、各種計画との整合を図っており、花いっぱい運動などの地域活動は、日常的な活動として引き続き展開されるものである。            また、まちづくり協議会としては未設置の地区にあっても、地区内の若手や女性メンバーを中心に実質的な活動が始められており、順次協議会組織への移行を予定している。</p> <p>・各地区のまちづくり協議会の連携を図るとともに、温泉街の再生を推進するため、市や観光協会、商工会などの機関団体とまちづくり協議会の代表者などで構成する推進組織を設立予定であり、今後の活動を支える体制が強化される予定になっている。</p> <p>○ 事業エリアと活動拡大</p> <p>・本計画は平成20年度までの5年間を機関として策定しているが、今後予定している国道400号中塩原バイパスや下塩原バイパスの開通などの状況に応じ、機動的かつ柔軟に事業エリアや活動の拡大が図れるよう、関係機関や地域住民との連携を密に保ち、検討協議を続けていく予定である。</p>	



都市再生整備計画の区域



塩原温泉地区(栃木県那須塩原市) 整備方針概要図 [しおばらおんせんちく(とちぎけん なすしおばらし)]

目標	温泉街の再生と住民がいきいき暮らすまちづくり	代表的な指標	にっぽんの温泉(知名度100選)のランクアップ(位/年)	85 (H15年度) → 70 (H20年度)
			ホームページにアクセスした件数(件/年)	265,000 (H15年度) → 315,000 (H20年度)
			塩原もの語り館入館者数(人/年)	28,000 (H15年度) → 30,000 (H20年度)

